

## 平成29年度「佐世保市行財政改革推進会議」〔名簿・議事要旨〕

■日 時 : 平成30年2月5日(月) 15:15~17:17

■場 所 : 佐世保市役所 本庁4階 第1委員会室

■委員の出欠状況 : 出席者7名 (欠席者3名)

[順不同・敬称略]

氏 名	所 属 団 体
おか みつまさ 岡 光正	佐世保商工会議所 議員
たき とものり 滝 知則 (ご欠席)	長崎国際大学 人間社会学部 教授
ふじむら りょうこ 藤村 良子 (ご欠席)	佐世保市民生委員児童委員協議会 連合会理事
うちうみ りえこ 内海 梨恵子	一般社団法人佐世保青年会議所 前理事長
わたなべ さくら 渡邊 さくら	佐世保市保育会 副会長

氏 名	所 属 団 体
つな たつゆき 綱 辰幸	長崎県立大学 地域創造学部 教授(学部長)
つるた たかあき 鶴田 貴明	公益財団法人 ながさき地域政策研究所 調査研究課長
にしむら やすのり 西村 泰則	佐世保市西部地区連合会 理事
かやはら ゆうこ 茅原 優子 (ご欠席)	佐世保市 PTA 連合会 母親部副部長
かもがわ ひろあき 鴨川 博明	連合長崎佐世保地域協議会 事務局長

### H30.2.5 平成 29 年度「佐世保市行財政改革推進会議」質疑応答（議事要旨）

#### （1）第 6 次佐世保市行財政改革推進計画[後期プラン]第 2 次改革工程表について

質疑	応答
○年度毎の地方債の発行額と返済額はどれくらいあるのか。	◆地方債の発行額は年間 95 億円～150 億円程度、返済額は 100 億円程度を見込んでいる。今のところ借入額が返済額より多い状況である。
○33 年度までにどのくらいの職員数の減少があるのか。	◆職員数については普通会計ベースで現在 2,102 人のところ、平成 33 年度に 1,930 人を目標としていますが、退職者不補充を考慮した実数として、平成 33 年度は 2,040 人を見込んでいる。
○現在、地区自治協議会は全て立ち上げられているのか。 また、地区自治協議会連絡協議会は、早い段階で設立した方が良いのではないか。  ○防災・福祉の取組の推進については、地区自治協議会だけでは若干足りないので、専門的な職員の指導が必要ではないか。	◆北地区と早岐地区が遅れているが、29 年度中に 27 地区全てに地区自治協議会が設立されることになっている。 連絡協議会は 32 年度に設立することとしているが、あり方を検討して前倒しできないのかということは考えていくべきであると思う。 ◆防災訓練や地区の防災のあり方については、防災危機管理局で今も行っており、次年度もモデル地区に展開する予定であるが、地域と密接な関わりを持ちながら取り組んでいくべきと考えている。

<p>○市の担当者が変わった事によって、事務的な連携や調整に不具合が出てきている場合がある。市民の為の仕事であり、職員の研修にあたっては十分理解させるようにして頂きたい。</p>	<p>◆十分意を用いて行っていきたい。</p>
<p>○業務量分析に基づく適正な定員管理、アウトソーシングについて、これから検討するのか、すでに検討されている項目があったら教えて頂きたい。</p>	<p>◆従前から民間でできることは民間へ委ねることを基本として幅広く検討しているところであるが、一般事務部門の見直しも他の都市や国で進められていることも併せて、この5年間で取り組もうと考えている。</p>
<p>○業務量分析に基づく適正な定員管理とあるが、定量的な基準を考えているのか。</p>	<p>◆今後モデル的な部門をピックアップして、適正な業務量がどれぐらいなのか、客観的に見ていきたいと考えており、推進会議の場でも報告していきたい。</p>
<p>○資料が漠然としている。具体的な事例や行動計画が見えないので、どれぐらい実現可能なかわからない。現実的にできそうな数字なのか。</p>	<p>◆人員については暫定的な配置や、プラスもあればマイナスもある。市民サービスが低下するような削減をして本末転倒にならないよう、よく見極めていかなければならない。</p> <p>◆部会でも資料が漠然としているという意見があった。第3次以降の工程表を作成する際に工夫が必要と考えている。各部局がそれぞれのプランを進めており、バックデータとしては持っているが、ご指摘を踏まえ今後表現を工夫していきたい。</p>

<p>○スクラップアンドビルドの徹底により、お金を生み出す仕組みを具体的に説明していただきたい。</p> <p>○マイナスシーリングによるスクラップや事業のビルドは部局の判断で行うのか。</p>	<p>◆予算編成方針において、部局長のマネジメントのもと成果を維持しつつ、財源を削減することとして、5%のマイナスシーリングを行っており、このような創意工夫により、財源を生み出したいと考えている。</p> <p>◆財源を配分する中でこの枠で予算を立てるよう指示している。スクラップを行って、見直したもののの中で代りに新しい事業を組み立てて頂く形をとっている。</p>
<p>○行政評価による優先順位をいかに明確にできるかが、メリハリの利いた予算編成につながるのではないかと。「行政評価」を「行政の最適化」と呼んだ方が今の時代に合っているのではないかと。</p> <p>○働き方改革は行政が率先して民間以上に取組んで、優秀な人材の確保と市民サービスの提供をぜひ示していただきたい。他都市では残業代が前年度から30%も削減された事例もあり、進めるには実践的な組織づくりも必要なのではないかと。</p>	<p>◆PDCAサイクルとしての行政評価は機能していると思われるが、優先順位への活用については企画部門で検討しているので、またアドバイスをお願いしたい。</p> <p>◆年々市職員採用試験の受験者が減っている状況である。優秀な人材確保のためにも、いい部分は取り入れて取組んでいかなければいけない。</p>
<p>○庁内業務の電子化・情報化について、全体的な最適化で効果額がもう少し増える要因はないのか。最新の情報システムを取り入れた中で検討して、うまく活用できるよう対応していただきたい。</p>	<p>◆システムを導入する際、試算して取組んでいるが、まずは見込んだ効果がしっかり出ているのか検証していく必要がある。見込んだ効果が出ないのであればその原因も分析しつつ、ご指摘も踏まえて取組んでいく必要がある。</p>

**(2) 公共施設適正配置北部エリア実施計画（案）について**

質疑	応答
<p>○市が運営されている住宅等についてはどう考えているのか。運営と収入とのバランスはどうか。</p>	<p>◆公営住宅は特別会計として一定の採算性により事業運営がなされており、アセットマネジメントがこれまでもなされている為、適正配置計画の対象外としている。</p>
<p>○再編は大変なご苦勞かと思うが、頑張っていたきたい。再編となるとマイナスのイメージがある為、未来志向的な議論が必要である。</p> <p>○交通アクセスの問題など福祉的な機能の担保の仕方も一緒に考えていく必要がある。</p> <p>○公共施設のフローとストック構造の見える化も大きなポイント。現状を維持すると想定した場合の負担の試算を示すなどにより、難しい側面も伝えていくのが大事。</p>	<p>◆今後の将来的な行財政運営を念頭に置き、住民の方に理解していただくまで繰り返しご説明しながら、何かしらの選択をしなければならぬことを伝えて参りたい。今後もできる限り理解していただけるような資料作りを含め考えていきたい。</p>
<p>○施設のハード面は致し方ないとしても、北部エリアの人の話を聞くと、人と行政との距離が遠ざかっていくような感覚だと言っていた。ハード面で統合されても、人に寄り添える人員配置を考慮して頂きたい。</p>	<p>◆施設の統合等によって、地域の方々と関係が薄くなるのは本意ではない。どのような形がいいのか今のご意見も参考にさせて頂きたい。</p>
<p>○再編の必要は大半の方が理解されているようだが、交通の便を心配されているのではないか。</p>	<p>◆地域からの意見として、小中学校の児童生徒に関し、学校が遠くなることを懸念されていたので、ソフト面での対応もしっかり視野に入れながら検討していきたい。</p>

<p>○再編案の中に直近5年間の分があまりないことから現地の人もあまり切羽詰まった印象は受けない。5年ごとの見直しで、その都度説明など十分対応していただきたい。</p>	<p>◆手法については検討の余地があると思うが、5年ごとに地域に出向いての意見交換会は必須であると考えている。</p>
<p>○ほかのエリアは今後どのような見通しで計画されるのか。</p>	<p>◆地域ごとに対象となる施設をピックアップし、主管課との協議から検討を進めたい。北部エリアに比べて旧市内は論点が異なると思われる。ただし、小中学校の統廃合等に関しては、北部エリアと同様に施設の用途に応じて柔軟に検討して参りたい。</p>
<p>○連携中枢都市圏など進めている中で、広域利用や再編後の包括的な管理方法についても、柔軟な検討が必要だと思う。</p>	<p>◆広域的な視野については議論すべきであるが、現段階では市内の方向性を見極め、連携中枢都市圏周辺自治体との調整は次のステップと考える。長期的な視点として、用途や地域を超えた今後の施設の在り方については、主管課共々考えて参りたい。</p>